

- ※ 道徳的実践は、道徳的行為を表しています。
- ※ 道徳的実践は、内面的な道徳的実践力が基盤となっています。
- ※ 道徳的実践と道徳的実践力は相互に響き合って、一人一人の道徳性を高めます。
 - ・道徳的実践を繰り返すことで、道徳的実践力が強まります。
 - ・道徳的実践力が育つことで、より確かな道徳的実践ができます。

この**道徳的実践力**を育成するには？



「道徳の時間」において、子ども一人一人が道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深めることが大切です。



「道徳の時間」が目指すものは、子どもの将来に生きる内面的資質であり、子どもの変容に即効性を求めるものではありません。

道徳的実践力は、徐々に、着実に（週1時間）養われることによって、潜在的に、持続的な作用を行為や人格に及ぼすものです。

（参考）

一方、学級活動では、授業で集団決定もしくは自己決定したことを、即実行に移すこと（即行動が変容すること）が求められます。学級活動と「道徳の時間」の大きな違いと言えます。

留意点

- 教師の一方的な押し付けや単なる生活経験の話合いなどに終始することのないよう特に留意し、特質を踏まえた指導の計画や方法を講じ、指導の効果を高める工夫をすることが大切です。
- 道徳の時間は、長期的展望と綿密な計画に基づいた丹念な指導が必要です。

